

〔1〕龍溪高橋彦次郎 明治元年（一八六八）四月―昭和七年（一九三二）一月十九日。実業家。高橋正平の長男として名古屋に生まれる。はやくから米相場に身を投じ、明治十八年わずか十八歳にして、名古屋米商会所の発表した取引番付に大関格としてその名をつらねた。同二十八年には株式仲買人の免許をうけ、米、株界に大きく君臨。「押切り将軍高彦」の異名を得ていたほどである。三十九年仲買業を廃止するが、大正八年（一九一九）名古屋株式取引所の理事長に就任。このほか、大正海運社をはじめとして東陽倉庫・中華企業・美濃電気軌道の取締役、名古屋鉄道監査役などを兼任した。また、名古屋会議所議員にもあげられている。大曾根に不鬼庵、河和に龍溪荘、西築港の埠頭に海門閣などの別荘を営み、古美術の収集にもつとめた。文中にも記されている佐竹家伝来信実筆後京極良経詞書の三十六歌仙は、大正八年に三十六歌仙絵巻の断巻が行なわれて数寄者に分配された際、龍溪の手に帰したものである。